

# 太宰府の文化財

341

## 基肄郡の織物を入れた木箱

(大宰府条坊跡第289次調査 都府樓南三丁目)

旧福岡県教員住宅の解体に伴って平成23年度に行った発掘調査で、奈良時代の井戸跡から珍しいものが見つかりました。それは、木製の箱の外側に墨で文字が書かれたものです。

さてこの井戸は、上面が直

径約3mの円形、検出面からの深さが3m弱の掘り方の中に、木板を組んで方形の井戸枠を設けていました。調査で掘り下げていた途中でも水が湧くほどで、そのおかげで大部分の井戸枠材が朽ち果てずに残っていました。表題の木

箱は、井戸の底近くで井戸枠材として転用されていたものです。墨書は16文字あり、箱の側面の底に近い部分に右手に横倒して縦書きされています。肉眼ではすべてをはっきりと読むことはできませんが、赤外線カメラで確認して専門家の方々と検討した結果、右下のように読むことができました。

「基肄郡」は、現在の佐賀県基山町にあたる地名で、大宰府があつた筑前国に隣接する肥前国に属します。「布」は麻布を意味し、「絶」とは粗い絹織物で、どちらも律令制下に税として納められていた品です。また、「端」「匹」はそれぞれ「布」「絶」の広さを表す単位です。一端は長さ五丈二尺（約15.4m）、幅二尺



墨書のある木箱の出土状況（南東から）



墨書のある木箱の材（幅101.3cm、高さ52.4cm、厚さ1.5cm）

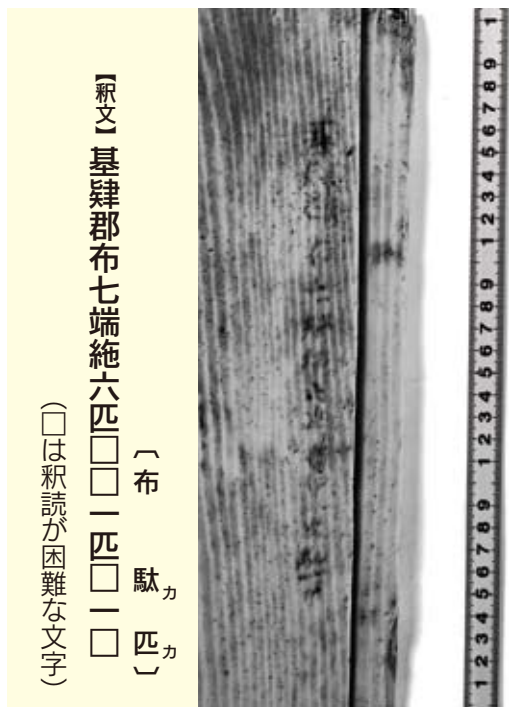
四寸（約71.3cm）、一匹は長さ五丈一尺（約15.2m）、幅二尺二寸（約65.3cm）です※。つまり、木箱には布と絶を主体に基肄郡で生産されたかなりの量の織物が入っていた計算となります。

なぜ基肄郡の品を入れた箱が、ここで見つかったのでしょうか？この箱が最終的に井戸の枠材となるまでにはさまざまな経緯が考えられますが、箱の中身が税として納められる際には、まずは肥前国府に集められ、それから西海道を統轄する大宰府へと届けられたと考えられます。ひと

つ、興味深い要素として、調査地の近隣に「市ノ上」という地名が残っており、かねてから市の存在が想定されているところだということです。平城京では、左京に「東市」、右京に「西市」という市が設置され、税で集められた地方の物産も売られていました。この近くに大宰府の西市が存在した可能性を示す資料となるかもしれません。

文化財課 遠藤 茜

※養老律令による。数値は一尺≒約29.7cmとした場合。



墨書の赤外線写真（奈良文化財研究所撮影）▲

# 太宰府の文化財

342

## 新指定された文化財

9月10日に行われた太宰府市文化財専門委員会の答申を受けて、9月25日付で、以下の3件が新たに太宰府市指定文化財に指定されました。太宰府市指定文化財は、これで合計23件となります。

### 有形文化財（1件）

#### 今川了俊書状

所在地：宰府二丁目 個人蔵  
 明徳2（1391）年2月25日、九州探題の今川了俊が齋藤



▲今川了俊書状



▲戒壇院の菩提樹



▲日吉神社の社叢

### 天然記念物（2件）

#### 戒壇院の菩提樹

所在地：戒壇院境内（観世音寺五丁目）

藤兵庫丞に宛てた書状で、筑後国三潁の所領をめぐる大友氏の押妨（他人の所領などに押し入って乱暴を働いたり、不当な課税を行ったりすること）に対し、今川了俊が配下の奉行人である三須入道に大友方の押妨をすぐに停止させるように伝えた内容が書かれており、太宰府中世史にとって貴重な資料です。

この菩提樹は、本堂の東側に所在する中国原産のシナノキ科シナノキ属のボダイジュで、樹高6.10m、幹周1.28mあり、樹勢は旺盛で、6月初旬には淡黄色の花を多くつけます。『筑前国続風土記拾遺』（18

#### 日吉神社の社叢

所在地：日吉神社境内（観世音寺五丁目）

14年）の戒壇院の記述の中に「菩提樹一株」とあり、樹齢は200年以上と考えられます。菩提樹は日常的に見ることが少ない樹種で、県内でも大木と呼べるものは少なく、幹周1mを超える大木である本樹は大変貴重です。

日吉神社の社叢は観世音寺の北側にあるこんもりとした森で、参道の階段両側にはクスノキの大木が並び、社殿西側には市内屈指の大木であるスダジイやイチイガシが繁茂しています。この社叢は太宰府市内で数少ない自然形態を維持する鎮守の森であり、北部九州の典型的な常緑広葉樹の森として貴重です。



# 太宰府の文化財

343

## 新指定の国史跡 宝満山



▲宝満山の指定範囲

341・56千  
は64万4千  
指定の総面積  
は39万1千  
41・30㎡で、  
は64万4千  
341・56千  
です。

て国の史跡になりました。

10月17日に官報告示がなされ、太宰府市と筑紫野市にまたがる宝満山が国史跡として指定されました。

指定の名称は史跡「宝満山」で、太宰府市と筑紫野市にまたがる山中の龍門神社社地と山すその民有地、公衆用道路、水路の一部が対象となっています。

太宰府市側では大字北谷字宝満1番他20筆がその対象地です（地図参照）。

対象地域の面積は太宰府市が25万3千300・26㎡、筑紫野市は39万1千41・30㎡で、指定の総面積は64万4千341・56千です。

史跡の歴史的背景と価値については、出土遺物から古代の官衙（役所）である大宰府と密接な関係をもって成立した信仰の山であることが知られ、天台宗を開いた最澄はじめ入唐の際の祈願が行われるなど対外交渉に係る信仰の山として史料に現れています。中世以降には修験の山として栄え、近世を通じて信仰の山として発展し、その信仰は龍門神社などに連綿と引き継がれています。山中には祭祀跡、寺社の堂舎跡、祭祀や修行に關係する窟、居住空間としての坊跡など、古代から近世に至る遺構が良好に遺存しており、我が国の山岳信仰のあり方を考えるうえで重要であると認められています。特に古代大宰府と密接な関係を持つ信仰の山として評価され、日本での山岳信仰のあり方を考える上で重要であると指摘されています。山岳信仰の山としては秋田県と新潟県境にある鳥海山、静岡県と山梨県境の富士山などに続き霊山として国の史跡になりました。

史跡宝満山は、市内においては特別史跡大宰府跡、水城跡、大野城跡、史跡大宰府学校院跡、筑前国分寺跡、国分瓦窯跡、観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡に次ぐ8番目の史跡であり、新規の国史跡指定としては昭和45年9月に大宰府学校院跡と観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡が指定されて以来43年ぶりの指定となります。また、国県市を含む文化財の指定件数は109件となりました。



▲宝満山全景（市役所から）

この貴重な歴史的な資産を次の世代に残し活かしていくため、さまざまな取り組みが求められます。史跡内では文化財保護の観点から使用・利用の制限がありますので、詳しくは文化財課にお尋ねください。

文化財課 山村 信榮

# 太宰府の文化財

344

## 「梅あげ」行事

旧太宰府町(昭和30(1955)年に旧水城村と合併以前の太宰府町のこと)の人々で、厄年に太宰府天満宮に梅を奉納する習慣があり、そのことを「梅あげ」と呼んでいました。現在は太宰府市全体で同級の人々が集まって行う行事となっています。

域や時代で変化しているのですが、現代でも風習として伝わっています。「梅あげ」行事は、初老にあたる数え年41歳の男と還暦にあたる60歳の男女が厄払い(還暦は年祝いとも云われます)として行っています。初老が3月15日か吉日に、還暦の人々は初老とは別の日の3月吉日と『太宰府市史民俗資料編』にはなっていますが、近年は還暦が3月前半、初老が同月後半の土曜日が多くなっているようです。

厄年は多くの災厄が降りかかる年齢のことをいいます。日本では平安時代から伝わっていますが、その科学的根拠や起源もわからないままです。また、厄年とされる年齢も地

さで、行事はその歳に当たる人々が正装かつては紋付き袴姿でしたので、プラム・カルコア太宰府からどんかん道を通り、道中の公民館で休憩しながら太宰府天満宮まで、笛・太鼓・三味線のお囃子隊(平成24年に「梅ばやし隊」が結成されました)や奉納する梅を載せた牛車とともに行列を組んで練り歩きます。道中では人々に紅白の餅を配りながら進んでいきます。沿道の家々も表にお接待の準備をして行列を待ち構え、通り掛かると酒と肴を進めます。特に初老のときは飲み過ぎて植樹まで行きつかない人もいるということです。さすがに還暦ではそういうことまではないようですが、実に賑やかな道中とな

ります。皆さんよい気分、顔になって天満宮に到着すると運んできた梅を神苑に植樹して終了となります。天満宮に梅を奉納する習慣は「それより別当の坊をたち出て梅の木二株を寄付しまいらせ」(杉山義信父「鹿兒島日記」文化14(1817年)と紀行文にあらわされていて、少なくとも江戸時代後期には行われていたことがわかります。今日まで天満宮の大祭などの節目の際や、歌舞伎役者などの著名人による献梅が続いています。

「梅あげ」は、明治35(1902)年の菅原道真御神忌一千年大祭で梅いっぱい運動が行われ、神苑8万坪に約3千本の植樹がされました。そのときに博多松

モデルとされています。現在は年齢を年度で区切って集まり千支の名前が付くようになってはいます。たとえば次回平成26年は「羊半会(還暦)・「寅卯会(初老)となります。同窓会的行事の要素が多く、遠くに住んでいる人々も帰郷して参加します。そこには懐かしい顔がありお互いの無事を喜んでいるようです。普段は何でもない沿道に快活な楽しさに満ちた祝祭空間があらわれるのは、春の吉日の太宰府らしい行事と思われ



奉納の梅を載せた牛車



梅ばやし隊



沿道でのお接待



楽しさに満ちる通り



奉納した梅の植栽  
※写真はすべて平成25年還暦巳午会

ときに博多松囃子の高砂連6百余人が五条口のところからお囃子を奏しながら行列し、梅の屋台を引いて奉納をしたのが

平成25年12月号の32頁「太宰府の文化財」で誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

(懇) 秋田県と新潟県境  
(正) 秋田県と山形県境

文化財課 城戸 康利



# 太宰府の文化財

345

## 画像埴 (鳥文埴) 大宰府条坊跡 (観世音寺1丁目) 古代

埴は、粘土を型に入れて焼いた瓦やレンガのことで、建物床面や外装に使われました。



▲画像埴

府では政庁・観世音寺・筑前国分寺などの史跡や主要な遺跡から出土しています。

大宰府で出土する埴のほとんどは文様をもたない無文埴ですが、中には蓮華文や唐草文をあしらった文様埴があります。文様埴は、政庁跡や孔子廟があったとされる学校院跡から出土していますが、大宰府でもこうした特別な建物を荘厳にするために使われたとみられ、古代大宰府を代表する遺物として紹介されています。

さて、写真は観世音寺の南の発掘調査で1994年に出土した埴です。天地方向10.7cm、横方向12.0cm、厚さ3.0cmほどのかけらで、元々の面は前面と上面に残っていますが、全体が欠けており、本来の大きさと厚みなどはわかりません。ここには鳥の絵(画像)が浮き彫りされています。欠けてはいますが頭は向かって右を向いているようで、翼を広げ、尾羽を立てて、生き生きと飛んでいます。おそらく大空を飛んでいる姿、もしくは羽ばた

こうとしている姿でしょう。鳥の種類はわかりませんが、鳳凰という伝説上の鳥の可能性もあります。

この埴が珍しいのは動物が描かれていることです。前述のように、大宰府には植物をあしらった文様埴はありますが、動物をモチーフとした画像埴は今のところ知られていません。国内では埴仏を除くと画像埴の出土例は少なく、東北の多賀城跡でも、鹿を浮き彫りした埴が多賀城跡を代表する出土品の一つとして紹介されるほどです。

では、出土した観世音寺の前面(南側一帯)とは、どういう場所だったのでしょうか。観世音寺の前面は、昭和54年にはじまった観世音寺区画整理事業に伴う調査によって、古代から中世にいたる遺跡が密度高く残っていることが判りました。ほとんどはそのまま地下に保存されていますが、発掘調査が行われた場所では、建物・区画溝などとともに、貴重な陶磁器を含む豊富な出土品が見つかつてい

ます。ただ画像埴をもつような施設があったかどうかは今のところわかっておらず、まだ謎は多いといえます。

実は、あの有名な『源氏物語』にこの場所のことが書かれています。これには「大式(だいしき)の御館(みだん)大宰(だいさい)大式(だいしき)が住まう館(たね)の上(のうへ)に観世音寺(くわんせいおんじ)がある」として記されています。物語なのでどこまで事実かはわかりませんが、作者の紫式部の夫・藤原宣孝(のぶたか)は、正暦3・4(992・993)年ごろ筑前国の長官に赴任しており、大宰府のことが聞き書きされた可能性はあるでしょう。

平安時代、大宰府の長官・帥(すい)は親王(しんのう)(皇族)が歴任し、都にとどまります。このため大宰府の実質的な最高責任者は権帥(ごんすい)または大式(だいしき)として、しかも帥(すい)クラスの公卿(こうきやう)(三位または参議)に昇進し、大宰府へ赴任していました。最高責任者が住まう館(たね)「大式(だいしき)の御館(みだん)なら、この画像埴(がざう)があしらわれていたとしても不思議ではないかと思

文化財課 井上 信正

# 太宰府の文化財

346

## 瓦経がきょう

朝日山周辺

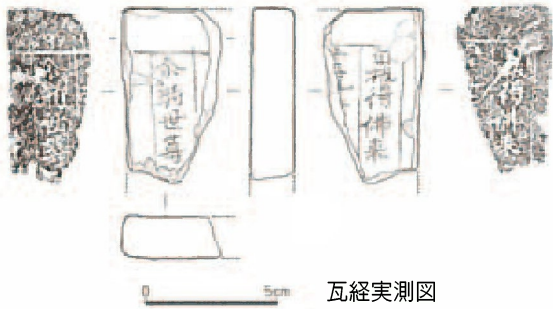
平安時代後期

仏教の経典といえば、紙に墨で経文が書かれて巻物となっているのが、まず頭に浮かぶと思います。今回紹介するものは、経文を紙ではなく粘土板に書いて焼いたという珍しいものです。この経文が書かれた粘土板のことを「瓦経」といいます。福岡県から出土し

た瓦経としては、福岡市西区の飯森山頂から見つかったものが有名で、現在、福岡県の指定文化財となっています。さて、実は太宰府でもこの瓦経は見つかっています。今まで瓦経が出土した場所は、観世音寺の北側の山裾あたり



裏 瓦経画像 表



瓦経実測図

瓦経もその山々の東側にあたる、朝日地蔵がある朝日山の北斜面裾から出土したものです。

この瓦経は縦6.7cm、横3.7cm、厚み1.6cmの破片で、両面に経文が刻まれていました。表面にはヘラを使って罫線を引きました。その間に文字を刻みこんでいました。この瓦経は表側に「自我得佛来」とあるため、書かれている経文が、法華経の如来寿量品第一六の91行目前半であることがわかりました。ちなみに、「自我得佛来」の後は、

経文では「所経諸劫数 無量百千万 億載阿僧祇」と続いています。この一節を、現在の言葉に訳すと、「私(釈迦牟尼仏)が仏として悟りを得てから今日まで、どれだけの時間が経ったかというと百、千、万、億、載(10の44乗)、阿僧祇(10の56乗)といったどんな数の単位でも表せないぐらい無量の昔からなのです」となるでしょうか。裏側の経文は同じ経文の92行目前半にあたります。

平安時代後期には、経塚と

よばれる地面に穴を掘って法華経などの経典を埋納する施設が全国でたくさん作られます。瓦経は経塚と一緒に発見されることが多く、11世紀後半から12世紀後半に盛んに作られています。この時代は、仏法が正しく行われなくなると信じられた「末法」に突入した時期にあたり、不安な世情から逃れるために仏教にすがった当時の人々の思いを現在に伝えています。

文化財課 高橋 学



## 太宰府検定

太宰府のこと  
どこまで知っていますか？

「太宰府検定」とは、太宰府の歴史や文化・自然など、さまざまなジャンルが出題される検定です。平成24年5月に太宰府市市制施行30周年事業として第1回が開催され、全国から約650人もの皆さんに挑戦していただきました。今号からこのコーナーでは、太宰府に関する問題を出題していきます。ぜひチャレンジしてみてください！太宰府の魅力を発見してみませんか？



それでは、今月から「一月一問」始めます！

平成26年9月に開催される「太宰府検定」は第何回の開催でしょうか。

①第1回 ②第2回 ③第3回 ④第4回



### 「太宰府検定」

主催：太宰府検定実行委員会 共催：太宰府市  
事務局：財団法人古都太宰府保存協会 ☎(922)7811  
[HP] <http://www.太宰府検定.jp> (一日一問実施中)

©：2014



# 太宰府の文化財

347

## 隈廬公のお墓

太宰府市民遺産第7号 朱雀三丁目



▲昭和60年に菊武さんによって玉垣が、太宰府天満宮によって覆屋が建てられました。



▶ 隈廬の墓の傍には六弁の梅と呼ばれる梅の木があり、2月の満開のころには市内外から見物者が訪れます。

朱雀三丁目の榎区の納骨堂の敷地の片隅に、「隈廬の墓（奥都城）」と伝えられている立石があります。この隈廬とは、菅原道真の息子のことです。

昌泰4（901）年1月、道真は、謀略により都から太宰府へと左遷されることになり

ました。このとき、道真は家族の中でまだ幼かった紅姫と隈廬の二人とともに連れてきたと伝えられています。しかし、大宰府での道真の暮らしは決して楽なものではありませんでした。そうした苦しい生活の中、隈廬は大宰府に來た翌年の秋に、病で亡

### 秋夜『音家後集』

床頭展転夜深更  
背壁微燈夢不成  
早雁寒蜚聞一種  
唯無童子讀書声

童子小男幼字  
近會天亡

（現代意識）  
秋の夜

寝床で寝返りを打つだけで夜は更けてゆく壁には淡いともしが揺らぎ夢を見ることができない  
時季外れの雁とコオロギの鳴き声は聞こえるが童子息子が讀書する声だけが聞こえない  
童子とは息子の幼名の通称この子は最近早死にした

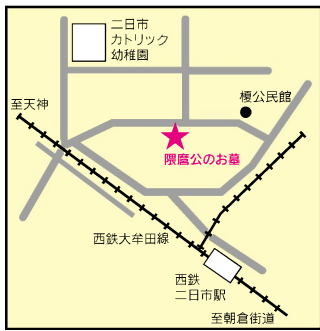
※すぐ近くの榎スポット公園には、道真の漢詩「秋夜」の碑が立っています。

くなつてしまいました。道真は愛息子を失った悲しみを、漢詩に詠っています。

この隈廬の墓は、地元の榎の皆さんによってお世話が続けられています。特に、隈廬の墓の近くに住む菊武夫妻は、墓の玉垣を新調し、墓に供えるための柳を庭で育てるなど、大きく貢献をしてきました。亡くなった夫を引き継いで、妻のトリさんも長年、墓の周囲の清掃や柳のお供えなどの世話を欠かさず行ってきました



▲毎年、4月15日と7月15日には、太宰府天満宮によって春まつり・秋まつりがおこなわれています（どなたでもお参り可）。



だが、高齢となつてきたため先々のことを心配し、隈廬の墓を地域で守っていけないかと相談をしました。そうして、平成23年に区の自治会役員が中心となつて、育成団体「榎文化保存会」が発足されました。会は、この隈廬の墓とその物語を未来に伝えていきたいという想いから、平成25年3月に太宰府市景観・市民遺産会議で市民遺産に提案し、認定されました。

文化財課 遠藤 茜



太宰府のこと  
どこまで知っていますか？

第3回 9月7日(日)開催  
受付期間 4月1日(火)~7月31日(木)

主催：太宰府検定実行委員会 共催：太宰府市  
事務局：公益財団法人古都太宰府保存協会 ☎(922)7811

🐢 それでは、今月の「一月一問」始めます！

太宰府の名物として参道でも販売されているお餅は何餅でしょうか。（第1回 初級第15問 正解率98%）

①松ヶ枝餅 ②梅ヶ枝餅 ③竹ヶ枝餅 ④香梅餅

HP <http://www.太宰府検定.jp> (一日一問実施中) ☎ : 3772

# 太宰府の文化財

348

## 弥生時代の高雄地区の風景

### 今王遺跡第3次調査 高雄四丁目

今回は、昨年10月から平成26年2月まで発掘調査を行った今王遺跡第3次調査を紹介いたします。今王遺跡のある高雄地区での発掘調査は、7年ぶりの調査となり、弥生時代の集落の広がりや農耕、狩猟、石器の生産など当時の生活をしめす貴重な資料が確認されました。



高雄地区では、今までに宅地開発や学校建設などにより発掘調査が行われてきました。今王遺跡と同じ尾根の上にある吉ヶ浦遺跡では弥生時代の甕棺墓などが確認されています。また、太宰府南小学校の建設に先立ち、菅浦浦古墳群が調査され、銅鏡や漆塗りの櫛などが出土しました。

今王遺跡もこれまで2度の調査が行われ、6世紀に造られた直径12mの今王2号墳(円墳)や古墳時代の土坑などが調査されています。

今回の第3次調査は、今王2号墳の東側に続く尾根を調査し、弥生時代中期(今から約2千5200年前)の人々が住んだ竪穴住居跡1軒や土坑2基、細長い溝状の遺構2条、小穴58基を確認しました。楕円形の竪穴住居跡は、全体の3分の2ほどを確認しました。床で確認された柱穴から6〜8本の柱によって屋根を支えていたと考えられます。また、この竪穴住居跡は、住人が増えたからなのか円形の住居から建替えや増設築によって、少し大きな楕円形の住居に造り変えられたようです。遺跡内からは、弥生土器の甕や壺の破片、石包丁、黒



弥生時代の竪穴式住居



稲の収穫に使う石包丁



曜石製の石鏃、石器を作る時に割られた黒曜石や安山岩の小さな破片が出土しました。弥生時代の高雄地区の人々が野山では獲物を追って駆け回り、ふもとに広がる水田では実った稲穂を収穫していた姿が目に見えます。

文化財課 沖田正大

# 太宰府検定

太宰府のこと  
どこまで知っていますか？

## 第3回 9月7日(日)開催

受付期間 4月1日(火)~7月31日(木)

主催：太宰府検定実行委員会 共催：太宰府市  
事務局：公益財団法人古都太宰府保存協会 ☎(922)7811



それでは、今月の「一月一問」始めます！

国宝に指定されている、日本最古といわれる梵鐘をもつ寺社はどこでしょうか？

- ①戒壇院 ②太宰府天満宮 ③龍門神社 ④観世音寺

HP <http://www.太宰府検定.jp> (一日一問実施中)

☎ : 922

編集/太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号  
☎092(921)2121 FAX(921)1601 ✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

この広報誌は再生紙  
を利用しています。



# 太宰府の文化財

349

## 光明寺庭園

### 宰府2丁目

光明寺は太宰府天満宮の南に位置し、臨済宗東福寺派に属する禅宗寺院です。

この光明寺庭園は、作庭家である重森三玲（1896、1975）によって作庭されたもので、作庭は昭和32（1957）年5月23日から開始され、同年6月1日に完成しています。重森三玲は5



月23日から26日までの4日間、に渡って現地では石組等を指導し、施工は三玲の門下生であった河野伊三郎と野口信一を中心に行われています。

庭園は本堂を挟んで、表庭と本庭に分かれ、山門から本堂へのアプローチ部分に存在する表庭は、カエデの老木付近に三尊石組を設け、全庭を七五三式の15石

とし、光明寺の「光」という文字を抽象的に表現しています。

そして、三玲によって「一滴海の庭」と命名された本庭は、本堂や茶室「一滴庵」等から鑑賞する座観式の庭園で、背景に山林をかまえます。本庭園は、

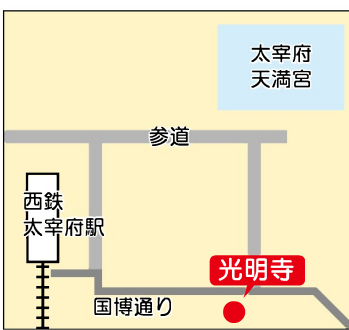
カエデの下部に、三玲の特徴である白砂の洲浜模様（すずみづな）が施され、中央の白砂中には、光明寺にゆかりのある渡宋天神伝説に基づき、大海をテーマとした多数の石組による岩島が表現されています。また、白砂は本堂東側から西側に向かって広がるように敷かれ、カエデの密度も密から疎に変化するよう構成されています。

このことにより、見る場所によって景観の奥行が変化し、鑑賞者は建物内を移動することによって多様な景観の変化を楽しむことができます。また、多くのカエデの存在が四季の変化による様々な庭園景観を生みだしています。

本庭園の作庭時、資金の問題から三玲は自ら好んだ庭石を購入することができず、寄付されたと考えられる20〜30個の石（緑色片岩、泥質片岩、珪質片岩）と元々存在した庭石（花崗岩やカエデを利用し作庭しています。日本庭園において、三玲は色彩にこだわる作庭家であり、寄付さ

れたと思われる庭石の多くが色彩豊かな結晶片岩であることから、庭石を集める上で三玲の指示があつたものと考えられます。

重森三玲は全国各地に多数の庭園を作庭していますが、九州における作庭事例は非常に少なく、三玲の作例でこれほど多くの落葉樹のもとに石組を配した庭園は他になく、彼が植栽を用いて作庭したものの代表作と言えます。また、本庭園の東斜面には江戸期以前から存在したとされる滝石組も保存されています。この庭園は学術上・芸術上の価値が評価され、平成26年3月14日に県指定名勝に指定されました。



文化財課 宮崎亮一

## 太宰府検定

太宰府のこと  
どこまで知っていますか？

第3回 9月7日(日)開催  
受付期間 4月1日(火)~7月31日(木)

主催：太宰府検定実行委員会 共催：太宰府市  
事務局：公益財団法人古都太宰府保存協会 ☎(922)7811



それでは、今月の「一月一問」始めます！

今年、築造1350年といわれている史跡はどれでしょうか？

- ①水城 ②大野城 ③基肄城 ④怡土城

HP <http://www.太宰府検定.jp> (一日一問実施中)

〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号 ☎(922)7811

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号  
☎092(921)2121 FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

この広報誌は再生紙  
を利用しています。

# 太宰府の文化財

350

## 鍬 籬川遺跡 大佐野一丁目

畑や田んぼの土を耕す農耕具として広く使われている鍬ですが、皆さんこの鍬がいつごろから使われていたかご存知でしょうか？

鍬の歴史は古く、縄文時代の終わり頃からみられます。この頃は石を用いた石鍬が使われていました。日本列島で農耕具として本格的に鍬が使われはじめたのは弥生時代（約2400年前）からと考えられています。日本最古の水田跡として知られる唐津市の菜畑遺跡や福岡市の板付遺跡で出土しており、大陸から日本へ水稲耕作とともに伝わったことがわかります。

太宰府市内の遺跡からも鍬が発掘されています。写真は1988年に籬川遺跡から出土したもので、①は平鍬の刃、②は三又鍬の刃です。どちらもカシの木製とみられ、

籬川遺跡は水辺の遺跡で鍬以外にも多くの木製品が出土しています。また、製品の材料となる割材や加工の際に出る木屑が見つかっており、木材の保管場・加工場だったようです。

さて、現在の鍬と比べてみるとどうでしょう？形はほとんど変わっていないことがわかってきます。土を掘るために適した形は、大きな変化を必要としなかったの

です。ただ、刃については木から鉄へと材質の変化が見られます。それは木に比べて鉄は硬く耐久性があり、鋭利であるため作業効率は大幅にあがるからです。はじめは木製だった刃ですが、鉄が普及するにつれて刃先に鉄を取り付けたものが登場します。現在では柄は木製、刃そのものは鉄製のものをよく見ますが、少し前まで刃先のみ鉄を取り付けたものが使用されていました。

もともと農耕具として生まれた鍬は、土を耕すだけでなく、さまざまな土木工事や私たちが行っている遺跡の発掘調査などで土を掘る道具としても活躍しています。日常の道具である鍬ですがその歴史は古く、二千年以上もの間形を変えず今もなお使われています。私たちにとって重要な道具であることは今も昔も変わりません。

文化財課 中村 茂央



①平鍬



②三又鍬



現在の鍬

太宰府  
検定

太宰府のこと  
どこまで知っていますか？

第3回 9月7日(日)開催  
受付期間 4月1日(火)~7月31日(木)

主催：太宰府検定実行委員会 共催：太宰府市  
事務局：公益財団法人古都太宰府保存協会 ☎(922)7811



それでは、今月の「一月一問」始めます！

延寿王院に滞在していた五卿を尋ねてきたとされる、土佐出身の幕末の志士は誰でしょうか？

- ①大久保利通 ②坂本龍馬 ③木戸孝允 ④西郷隆盛

HP <http://www.太宰府検定.jp> (一日一問実施中)

☎：☎372